YAMAGUCHI

協議会だより

NO.47　(2012.11)

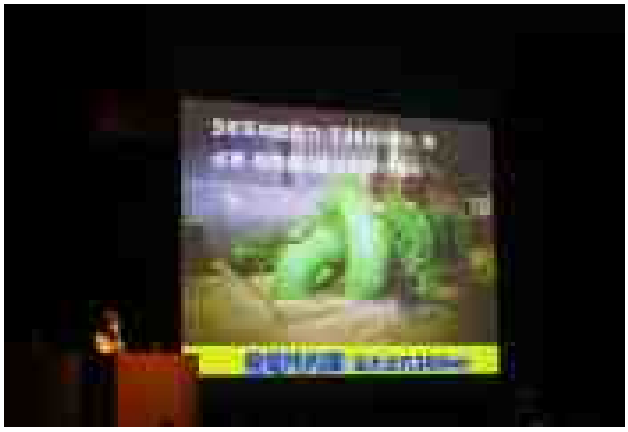
山口県農地・水・環境保全向上対策協議会

平成 24 年度　農村環境の未来を考える研修会　H24.11.15

再生エネルギーの地産地消を提案！

持続可能な地域農業の構築と豊かな農村環境を次世代へつないでいこうという「農村環境の未来を考える研修会」が 11 月 15 日、山口市の山口県総合保健会館であった。県内の土地改良事業や農地・水・環境保全活動などに取り組んでいる関係者ら約 800 人が参加した。国の農地・水保全管理支払い交付金による活動組織の連携を図る「山口県農地・水・環境保全向上対策協議会」の主催。

基調講演は、栃木県・那須野ヶ原土地改良区連合の星野恵美子参事が「水土里ネット那須野ヶ原エネルギー政策　～米と電気は自分で創りたい～」と題し、再生可能エネルギーへの取り組みなどを語った。



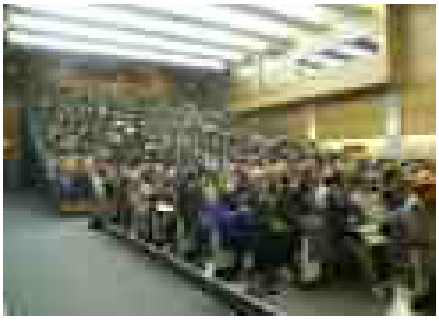
星野参事は農業にはエネルギーが不可欠な関係から「食糧生産とエネルギー開発はワンセット」と位置付け、水力や太陽光、バイオガスなどによる発電の取り組みを紹介。那須ヶ野原が古くから用水確保で苦労したため発達した水路の高低差約380メートルを利用した水力発電や小水力発電は、利用効率が 78～65%に達して採算に合っている点を強調した。水路ごみ対策などの課題はあるが、「農村は多くのエネルギーのポテンシャルを秘めている。エネルギーの地産地消も考えてほしい」と述べた。

パネルディスカッション（テーマ　地域の資源（おたから）を活かしてみませんか！）は、深田三夫山口大学教授を進行役に、星野参事や西村克己県商行会連合会専務理事、人見英里県立大学教授、名和田伴江県地域消費者団体連絡協議会員、宮本邦彦山口新聞本部副本部長、中野隆雄県農村整備課調整監の 6 人が農村地域の資源をテーマに討論した。

人見教授は、「農村の人は何にもないと言うが、都市部から見れば何にもないのが魅力。はなっこりーの摘み取り体験でのポキッという音でも魅力を感じる」と述べ、都市住民と農村地域の住民との意識の違いを指摘。若い就農者確保の問題で西村専務理事は「就農者には返還を免除する給付型就農奨学金の創設を提案したい」と述べた。中野調整監が水車による県の「ピコ水力発電」の検討を紹介すると、星野参事は「採算が合わないのでやめた方がよい」と助言した。

平成 24 年 11 月 16 日　山口新聞

Ｈ２４研修会メッセージ・・・「山口県の農村地域でも電気を生産する時代がきている！」



編集・発行：〒753-0079　山口市糸米 2-13-35　（水土里ネット山口　4F）
山口県農地・水・環境保全向上対策協議会　TEL 083-933-0755　Fax 083-933-0756